

# 4つの神学



授業紹介—「新約聖書学部演習」

テキスト独自のメッセージを原典から聴き取ります。



2015年度学部4年  
阪根 啓子

ルカ福音書7章11-17節のナインのやもめの一人息子の物語をもとに、釈義の基本を丁寧に学んでいます。写本の異読、伝承とルカの編集の跡、聖書以外の類似した奇跡治癒物語との比較、当時の社会的背景、七十人訳

聖書との関連性、ルカ福音書全体におけるこの物語の文学的機能などを知るため、様々な文献を読みます。しかし、なによりもギリシャ語テキストを徹底的に読みこなします。ルカの神学を、皆と一緒に勉強しています。



授業紹介—「組織神学演習1」

現代社会における福音と教会の関係を探求します。



2015年度大学院  
博士課程前期課程1年  
上田 文

組織神学演習1は、物語の神学におけるキリスト論と救済論を扱っています。学部ではプロテスタントの神学の基礎を学ぶのに対し、大学院に入りカトリックの神学をも扱うことで福音主義教会の神学を立体的に考える機会を得ています。

教会を生かしてきたイエス・キリストの事実は、純粋な史的研究ではなく、物語という形を取ります。贖罪と救済の説教を通して、イエス・キリストが私たちに近づいてくださるというのはどの教派にも共通の事柄であることを学びました。

## 聖書に、何が伝えられているのか

聖書学 聖書神学とは、私たちの礼拝の中で朗読される聖書に、何が伝えられているかを解明する学問です。説教は、教会によって立てられた説教者が、聖書に基づいて語る時に、神の言葉として聞かれます。説教者が自分の思いを語るのではなく、聖書が証するキリスト御自ら語ってくださいます。

## 勝手な読みこみを批判し吟味する学問

しかしどのようにして、説教者の勝手な読み込みと、聖書それ自体が聖霊によって証言する主の御心を聞き分けることができるのでしょうか。聖書学/聖書神学は、聖書のテキストを、それらが語られた歴史の中に戻し、本来どのような歴史の中で、何を告げようとしたものなのかを解明します。またそのテキストが、どのように伝えられ、解釈されてきたかを学びます。それによって、私たちの読みを批判し吟味するのです。学んだ人は、聖書の成立や伝承の歴史を知り、釈義の手法を身につけ、語学、文献学、文学、歴史学、考古学といった財産を得ることになります。

## 教義学を中心に、倫理学、弁証学の三分野から成る

組織神学は、神の恵みの真理を現代の文脈の中で深く探究し、伝統を踏まえつつ責任的に証言しようとしています。そのうち「教義学」は、神の啓示を証言する聖書に基づき、父・子・聖霊なる三位一体の神とその御業を、体系的に考察します。「倫理学」は、キリスト者と教会が具体的な生活の場で、どう考え、行動すべきかを考察します。そして、「弁証学」は、現代社会にあってキリスト教に向けられるさまざまな疑問に対して、福音の真理性を明証しようとするものです。

## 教会とキリスト者を支えて神を讃美する

神学は人間の業ですから、どれも完全・絶対ではありません。常に「より深く、より明らかに」と、祈りをもって取り組まれるものです。そして、今の世に対して、「世の光」である神の真理を伝え、教会とキリスト者の信仰を支え、神を讃美します。祈りに支えられた理性的探究が神讃美に至る。それが組織神学の魅力です。



授業紹介—「教会史III」

信仰や教会の様々な歴史に触れると現代が新しく見えてきます。



2015年度学部3年  
竹田 沙絵里

教会史IIIでは宗教改革の歴史を学びます。先生の熱い語りにより、宗教改革時代の教会や社会の様子、改革者達の生き様が、教室に生き生きと立ち現われて来ます。学生は、資料を読み、それぞれの改革の神学の特質を

探ります。歴史を辿りながら、改革者達の向き合った問いに、私達もまた向かわれます。改革の歴史が動いたその時、まず神が御言葉によってひとりの信仰者の内面を改革されたことを痛切に思い知らされています。



授業紹介—「教育基礎論II」

神の言葉の教育実践に生きる課題発見能力を養います。



2015年度学部3年  
黛 由香里

この授業では、教育制度や、社会における教育について学びます。教育の基礎的な事柄について、キリスト者として学び、先生、仲間と交わりを持って、大変有意義な時です。教育について、歴史を辿りつつ現代の様

相に至った経緯を学び、さらに国際比較もしました。私達が違わされる世の在り方を知り考えることは、今後活かされると感じます。先生の牧師、教育者、キリスト者としての体験談を伺えるのも楽しいクラスです。

## 歴史神学 / 教会史とは

歴史神学 / 教会史とは、キリスト教会の二千年に及ぶ歴史を辿るとともに、教会の教え(教理)がどのように形成されてきたかを明らかにする学問です。歴史学の手法を用いますが、主イエス・キリストにおける神の啓示を出発点とする神学の一領域です。これらの研究によって、教会の歴史のドラマを知るとともに、今後の教会形成や伝道のための、具体的な指針を学ぶこともできます。

## 古代から宗教改革を経て現代まで

学部では、古代から現代日本までの教会の歩みを辿る教会史I~V、教理史(選択)、世界と日本の宗教史、ラテン語(選択)などを学びます。大学院では、古代から現代までの欧米、日本の教会の教理史、神学思想史、霊的生活史などの科目が開講され、学部での学びが更に深められるようコースが用意されています。

## 神の実践に参加するために

実践神学のルーツは、「牧者の学」「司牧学」にあります。しかし、「牧師の実践」にまさって、「神の実践」すなわち「神の救済行動」が主題ですから、今日では「実践神学」と呼んでいます。牧師の務めは、神の実践に参加させていただくことです。神の救済行動の中で、人間が神の道具として用いられるために、「説教学」「礼拝学」「牧会学」「キリスト教教育学」の学びが必要になります。

## 神学諸科を統合する課題も

そもそも神学全体が生きておられる神を神として崇め、神の実践にお任せするためにあります。教会やキリスト教学校での働きには、神学的な知識、能力を総動員することになります。そのため実践神学には、神学諸科を統合して、教会や学校での実践に結びつけるという課題もあります。